

<p>課題名 陰部ケア方法の見直しにおける業務負担軽減と尿路感染率の変化</p> <p>(1) 新規に導入される医療 (2) 保険診療の対象とならない医療 (3) 患者に不利となる可能性のある医療 (4) その他</p>
<p>研究責任者 待島 由起子</p>
<p>概要</p> <p>目的：尿路感染予防として陰部ケアは重要な清潔ケアの一つである。尿路感染率を増加させず、職員の負担軽減を図るため、現状の陰部洗浄方法から陰部泡清拭方法へと変更した。変更後に看護部職員のアンケート結果と尿路感染率の変化を報告する。</p> <p>方法：2025年9月から陰部ケア方法を変更し、看護部職員に陰部洗浄方法と泡清拭方法変更前後を比較したアンケート調査と、変更前後の尿路感染率を比較した</p> <p>結果：アンケート結果では業務負担について軽減したと回答した看護部職員55%であった。尿路感染率は、陰部洗浄と陰部泡清拭方では増減はなかった。</p> <p>考察：業務負担は、看護補助者の88%が軽減したと回答した。尿路感染率は変化がなかった。</p> <p>〈倫理上問題となる点〉</p> <p>アンケート時に同意を得る文書での説明を行った。収集したアンケートデータは匿名化し、電子データはパスワード保護下とし、紙媒体は施錠保管により管理し、研修終了後は破棄する。研究に際し、アンケートを使用する事を看護部職員に伝え拒否する職員は申しでるように文書で伝えた。同意が得られない場合は、不利益を生じることなく、該当のデータは発表から除外とする。</p>

本研究は第29回日本臨床脳神経外科学会で発表予定である。